

[東京うこっけいの肉利用]

東京うこっけいの低コスト肥育の検討と肉質改善

鈴木亜由美

(畜産技術科)

【要 約】東京うこっけいに、消費期限切れの α 化米を給与すると、肉中のn-6系列脂肪酸の割合が低くなる。 α 化米の50%混合給与は、ブロイラー用飼料よりも約70%、魚粉の10%混合給与でも約40%の飼料費が低減できる。

【目 的】

採卵を終えた東京うこっけいを肉用として仕上げるため、昨年よりブロイラー用飼料の給与を実施しているが、生産者からは飼料費の低減が求められており、また烏骨鶏肉の成分の特徴づけも課題になっている。そこで、通常給与している採卵用飼料に、消費期限切れの α 化米または魚粉を混合して給与し、生産性および肉成分を検討する。

【方 法】

450~500日齢の東京うこっけい雌鶏15羽に、採卵用飼料と消費期限切れの α 化米（東京都より無償提供）を1:1で混合したものを8週間給与した（ α 米区）。また採卵用飼料に魚粉（CP65%）を10%混合したものを2週間給与した（魚粉区）。試験期間中の飼料摂取量および増体を測定し、供試鶏は試験終了後にと鳥して、部位別に成分および脂肪酸組成を分析した。

【成果の概要】

- 1) 1羽当たりの精肉歩留りは α 米区、魚粉区ともに38~39%で、ブロイラー用飼料を4週間給与した時（ブロイラー区）との差はない（表1）。増体率はいずれの区も個体差が大きいが、魚粉区はやや高い（表1）。
- 2) それぞれの飼料について、摂取量を年間通じて数回測定して平均値を算出し、1日1羽あたりの飼料費を計算した。魚粉10%混合は4.4円/日、 α 化米50%混合は1.8円/日であり、いずれもブロイラー用飼料の7.1円/日より低く抑えられる（表2）。
- 3) もも肉の脂肪含有率は、 α 米区、魚粉区ともにブロイラー区よりも低い（図1）。脂肪酸組成については、 α 米区はリノール酸（C18:2）の割合がブロイラー区よりも有意に低く、魚粉区はn-6/n-3比が最も低くなる（表3）。
- 4) 魚粉給与による肉の風味への影響を調査するため、魚粉区の肉を用いてハムを試作し、一般消費者45名を対象にアンケートを実施した。味・においについて、一部「やや悪い」とした回答があったが、半数以上は「良い（やや良い）」との回答である（データ表示なし）。
- 5) まとめ：魚粉および α 化米の混合給与により、飼料費の低減と烏骨鶏肉の特徴づけが期待される。今後はこれらの適切な配合割合および給与期間を検討し、実用化を目指す。

表 1 450 ～500 日齢東京うこっけい雌鶏の飼養成績

試験区	期間 (週)	増体率 (%)	精肉重量 (g)	歩留り (%)
魚粉区	2	9.8±18.3	466.5±45.5	39.4±3.9
ブロイラー区	4	5.1±5.9	491.0±51.9	39.7±2.7
α米区	8	2.9±8.3	428.8±59.2	38.3±2.5

平均値±標準偏差

表 2 飼料費の比較

飼料	摂取量 (g/日・羽)	1日あたり 飼料費(円)
10%魚粉混合	63.1	4.4
ブロイラー用飼料	63.2	7.1
50%α化米混合	60.8	1.8

*飼料価格は 2009 年 7 月時点

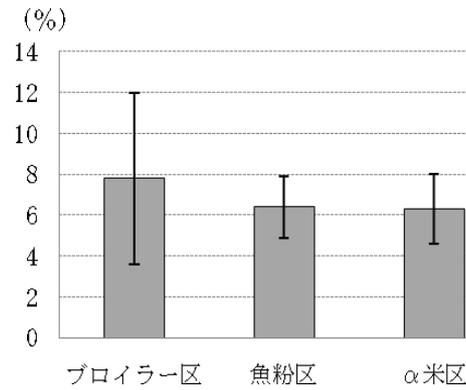


図 1 もも肉の脂肪含有率

表 3 各試験区もも肉の脂肪酸組成 (%)

脂肪酸	魚粉区	ブロイラー区	α米区
C14:0	0.54	0.56	0.48
C14:1	0.14	0.19	0.14
C16:0	18.54	18.63	19.69
C16:1	5.64	4.85	5.93
C18:0	5.61	6.01	6.23
C18:1	52.26	50.56	51.46
C18:2	15.58 ^a	17.70 ^a	14.98 ^b
C18:3	1.17	0.98	0.63
C20:4	0.32	0.43	0.37
C22:6	0.16	0.09	0.08
n-3	1.33	1.08	0.72
n-6	15.90	18.13	15.35
n-6/n-3 比	11.96	16.82	21.38

a, b 異符号間に有意差 (P<0.05). Tukey の多重比較による.